

学校法人 聖ヶ丘学園 育和幼稚園

2023年度（令和5年）自己評価結果公表シート

育和幼稚園では、本園の教育理念、教育目標達成に向け、2023年度の学校評価（自己評価）を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

【自己評価】

- (1) 対象者：常勤教職員17名
- (2) 実施日：2023年7月20日～2024年1月31日（1学期・2学期 各1回実施）
- (3) 実施方法：職員全体会議において、常勤職員に学校評価 幼稚園チェックリストを配付し、幼稚園の取組み状況や 自分自身の取組み状況について評価を求めた。

1. 学校の教育目標

事業の目的： 本園は、学校教育法第22条及び第23条に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とします。

教育方針： 1. 遊びを中心とした保育  
2. 子ども一人ひとりの善さを伸ばす保育  
3. 主体的で対話的で深い学びにつながる保育  
上記を方針として、遊びを通して社会性、想像力を育み、生涯にわたる人格形成の基礎を培う役割を担います。

教育目標： ○遊びを生み出し、面白がり夢中になって自らを創りだすことができる子ども  
○自分のことを大切にし、人の善さや思いやりに気づく子ども  
○基本的な生活習慣と態度を身に付け、自ら考え、自信をもって行動しようとする子ども

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

園内研修において、2023年度の事業計画及び基本方針を職員と共有し、園の教育及び教育方針、教育目標のもと、評価項目に従って自己点検、自己評価を実施する。自己評価については、保育・教育の視点（教育課程の編成と実務）を中心に日々の保育について具体的に保育者自身が保育の振り返りができるように自己点検を行う。また、園全体の運営・組織については追加し、全職員が幼稚園の運営にかかわっていくための相互理解・共通認識の深まりを目指す。保育者自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指していくためのものとした。

### 3. 評価項目の検証結果及び改善策

項目	カテゴリー	項目	カテゴリー
1	保育・教育目標について（5問）	7	情報について（3問）
2	指導について（5問）	8	指導について（4問）
3	教育週数・教育時間（2問）	9	出納経理（1問）
4	行事について（2問）	10	開かれた幼稚園づくり（18問）
5	経営・組織（17問）	11	保育の在り方、幼児への対応（28問）
6	研究・研修（8問）	12	保育者としての資質や能力・良識・適性（28問）
	評価項目・取り組み 状況評価項目	評価	検証結果及び改善策
1	<b>保育・教育目標について</b> 幼児の実態、園や地域の特色、保護者の願いを反映した保育目標を設定しているか。また、前年度の反省を生かし目標に向かって共通理解を図っているか	B	学年毎の教育目標は、前年度の子どもの姿や発達を踏まえ考えられているが、地域の特色や保護者の視点は意識した目標となっていない。今後、保護者の意見を伺う機会を設け、地域交流をふまえた視点を取り入れていく。また、保育目標については、学年ごとに立案しているため全職員で共有はしていないが、紙面（アプリ）を通して各学年の目標やねらいについて理解している。前年度の反省を生かし全職員で共通理解を図る機会を設ける必要がある。
2	<b>指導について</b> 指導計画は幼児の実態に即して作成し、保育実践は、教育要領に基づく援助、環境の構成を理解した対応となっているか、また、評価結果を基に、指導の改善に努めているか	B	指導計画は幼児の実態に即して作成するように心がけている。保育実践において、環境の構成は意識しているが、常に工夫ができてはいえず、後回しになりがちとなっている。教材や教具については、活かしていないものやいつも同じものを提供している状況のため、各クラスと交流して職員間で共有し、環境構成について高め合っていきたい。また、環境構成するための時間をどのように確保していくのか検討していく必要がある。今後は、環境についての研修を計画する必要がある。
3	<b>教育週数・教育時間</b> 教育週数は確保できているか、登園降園の時刻と一日の流れは現行でよいか	A	教育週数は確保できており、教育週数から行事の内容や期間を検討している。一日の流れについては、保護者より時間を長くしてほしいと要望が寄せられているが、職員のノンコンタクトタイムとのバランスの検討が必要であると感じる。当園はバスによる登降園の子どもが8割程度で、朝早く登園する子ども、帰りまでの時間が長い子どもがいるため、それぞれの受け入れと送り出しの保育、遊びの環境を検討する必要がある。
4	<b>行事について</b> 行事の種類や実施回数、子どもたちが、	B	コロナ禍により行事の縮小や取りやめていた時期から再開したため、準備や方法について全職員と共有できていない事があり、準備が大変であった。改善の体制については、今後「行事の在り方」について職員間

	自主的・実践的な活動となっているか、計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。保護者の願いや意見を取り入れているか。		で話し合い改善する必要がある。以前より子どもが主体的に、子どもの姿から実践に活かす行事が増えてきた。無理なく行うことが必要であることを念頭に置くが、子どもと共に作り上げることでギリギリになり担任は切羽詰まることもある。バランスを取りながら共主体で作り上げることを大切にしたい。また、保護者の願いや意見を取り入れる機会がなかなかないため、どのように意見を伺っていくか検討が必要である。
5	<b>経営・組織</b> (1) 分掌・体制 (2) 運営 (3) 学年・学級 経営 (4) 保健安全指導	B	(1) については、i P a dにより職員間で情報の共有ができるようになった。係や仕事の分担・割り当てされているが、担当者みみの負担となりチームとしての意識が持ちづらいため、共有する機会が必要である。年度途中で退職した職員の仕事を担うことで職員全体がキャパオーバーとなったが、必要人員は保っているため限られた人数で行う視点を共有していく。 (2) 降園後に管理職、担任との全体会議があり日々の保育や子どもの報告は共有出来ているが、預かり保育担当者に伝達や共有がしづらい。学年などの会議はあるが、他学年や預かり保育との連携が難しい。また、自分の意見を伝える際、適切に伝えられているか、他者からの評価が気になり緊張する職員が少なくないため、教職員相互が協力や助言を惜しまず園の運営に関わる必要を感じる。今後は、組織として今まで以上に風通しよく語れる雰囲気を作り、誰もが組織の一員として運営にかかわっていく体制づくりが急務である。 (3) 学年毎に保育・教育目標や幼児の実態に基づいて設定しているが、他学年との連携は、2学期以降となった。自由な遊び等で他学年・クラスとの交流はあるが、活動としては、各クラス毎となっているため、連携の方法について検討が必要である。 (4) 避難訓練については、計画に基づいて適切に実施しているが、不審者の訓練は出来ていないため、今後、園内で合図を決めて、避難後の対応について職員と共有し、子どもたちと訓練を行っていく。また、健康・安全な生活習慣については、専門的な学びが不足しており家庭への啓発に至っていない。感染症について情報提供や出停の取り扱いについて伝えることができた。安全指導については、園外保育に出る機会が少ないため、交通安全の意識が低く、園外保育の計画を含め職員、子どもたちが実践を通して意識を高めていく。子どもの安全確保のため家庭や地域社会と連携を図ることを検討したい。
6	<b>研究・研修</b> 研究主題は、保育・教育目標の具現化につながるものか、日常の保育に生かし、	B	職位や職務内容に応じて、各職員が該当するキャリアアップ研修や横浜市、幼稚園協会、保土ヶ谷区が開催する研修に参加し、必要な知識及び技能を身につけ保育の質の向上に努めた。研修後、学んだことを自分の園の保育に生かせるのか、職員に還元できるよう考える必要があるが今のところ全体の共有には至っていない。他の職員が受講した研修の内容について把握できないため、日々の保育の中で発信したり、園内研修

	<p>幼児の育ちに反映させているか。</p> <p>また、各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図り、園内に還元しているか。</p>		<p>で伝えあう機会を作っていくことを考えたい。今年度は、園内で外部の講師に依頼したことで幼稚園教育要領について深い学びにつながった。</p> <p>園内で行う研修は、いかに時間を捻出するか、また、もっと自由に職員同士が積極的に話せる機会を作る必要があり、職員が受動的となり、意見が言いづらい事がある。職員が安心して自らの思いや考えを表現できる風土を構築していく必要を感じる。</p> <p>研究については、研究するレベルに至っていないのが現状である。自ら研究主題を考えるための機会を作っていく、職員が自己研鑽する意識をもつことも必要である。</p>
7	<p><b>情報について</b></p> <p>個人情報、公文書收受、発送、処理を適正に取り扱っているか。</p>	A	<p>個人情報、公文書收受、発送、処理については、十分配慮し取り扱いに気を付けた対応を行っている。引き続き配慮していく</p>
8	<p><b>指導について</b></p> <p>園舎・園庭の施設・設備の安全点検や遊具・用具・教材等を、活用しやすいように整理・保管しているか。不審者等に対応する周到な配慮</p>	B	<p>環境面については職員全体で検討すべき課題である。配置のみならず素材や材質、使いやすさが自由に変化できる環境を整えていく。職員の一人ひとりの意識をもち、遊具の老朽化も踏まえて、学期の初めと終わりに全職員で園舎内、園庭、遊具、園外の見回りを行い日々の点検もしっかり行うことを検討していく。</p> <p>不審者等に関する研修の充実を外部の講師に依頼することを検討していく。町内の掲示板を利用させていただいているが、情報の入れ替えをしていく</p>
9	<p><b>出納経理</b></p> <p>各種会計を適正適切に処理しているか。</p>	A	<p>適切な処理を行っている。</p>
10	<p><b>開かれた幼稚園づくり</b></p> <p>(1) 学校間交流・連携</p> <p>(2) 家庭・地域社会との連携</p> <p>(3) 子育て支援の推進</p> <p>(4) 情報の発信、外部評価</p>	C	<p>(1) 学校間交流・連携については、今年度、常盤台小学校や上星川小学校と交流を行った。しかし、日常的なやり取りは少なく、年間交流計画は立てていない。3回の交流では園児・児童生徒が触れ合う中で、子どもたちは楽しく過ごし、充実感を味わうことができた。互いの忙しさから指導者同士が、打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図ることを今後の課題としたい。</p> <p>(2) 家庭・地域社会との連携については、地域社会との交流が少ないが、今年度はケアプラザにおいて高齢者との関わりが再開した。外部の交流を図ることは大切ではあるが、まずは、保護者を含む地域の人材を活用することを優先したい。(おいもパーティなどの行事)</p> <p>園外の地域環境としては、安全面の配慮が図りづらく園外保育や日々保育の中での散歩に行くことが容易にできないため、今後はクラス単位、小グループの体制で計画を立てられるか検討したい。</p>

			<p>未就園の親子には、園庭開放を行っている。附属幼稚園や保育園の子どもたちはお芋ほりや園庭で遊ぶ機会がある。</p> <p>(3) 子育て支援は、未就園児の保護者向けに学習の機会を設けている。園庭開放は、地域の方に開放しているが担当する職員が限定されているため、職員全体で共有が不足している。今後の課題としたい。また、保土ヶ谷区や児童相談所などの専門機関と連携し意見交換をしながら保護者と共有を図っている。</p> <p>(4) ホームページは活用できている、クラス便りのみならずアプリを利用して子どもたちの様子を発信していくことを検討したい。</p>
11	<p><b>一. 保育の在り方、幼児への対応①</b></p> <p>(1) 健康と安全への配慮</p> <p>(2) 幼児のよみとりと理解</p> <p>(3) 指導とかかわり</p> <p><b>二. 保育の在り方、幼児への対応②</b></p> <p>(1) 心のよりどころとして</p> <p>(2) 遊びの援助者として</p> <p>(3) その他</p>	B	<p>一.</p> <p>(1) 健康と安全への配慮については、職員が配慮している。</p> <p>(2) 幼児の読み取りについては、子どもの本心を探りさまざまな面から思いを読み取るようにしている。また、他の職員に意見を聞きながら一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている。自分のクラス内の対応はできるが、他クラスとの共有が難しいため、方法について考えていきたい。</p> <p>(3) 子どもと同じ目線にたつてものを見つめたり、子どもの気持ちに共感しながら遊んでいるが、途中で他の子供の対応などで抜けてしまう場面がある。遊びを深めていけるような環境やかかわりを、他の職員のアイデアを参考にしながら進められるよう共有していく機会を設けていきたい。</p> <p>二.</p> <p>(1) 心のよりどころとして、一人一人を理解しながら関わっている。引き続き大切に関わっていきたい</p> <p>(2) 幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている。できるだけ子どもに任せることや子どもと担任が共に同じ目線であることを意識し互いに素直に関わることを心がけたい。時として子どもの気持ちを聞く前に自分の気持ちを伝えてしまう事があるため、子ども理解を深めることを必要だと考える。他の職員と共有する語りの時間を設けていき、自分の気づきにつなげていきたい。</p> <p>(3) クラスに関係なく職員は、子ども達と関わりや遊びを大切にしている。クラスの環境構成や子どものことについて職員間で互いにフランクに意見を交換ができず、自分のことに必死で他の先生と語り合う時間を取る事ができない現状である。特に他学年と情報を共有することが難しい。ノンコンタクトタイムの時間の取り方を考えていく必要がある。</p>
12	<p><b>保育者としての資質や能力・良識・適性</b></p>	B	<p>一. 専門家としての能力・良識・義務</p> <p>(1) 幼稚園教諭として専門知識や技能を身に付けることについては、まだまだ勉強が不足している。自分なりに考えてはいるが、日々手いっぱいになりがちであるため、何ができるか職員間で共有していき</p>

<p>一. 専門家としての能力・良識・義務</p> <p>(1) 専門家としての能力</p> <p>(2) 良識とマナー</p> <p>(3) 義務</p> <p>二. 組織の一員としての在り方</p> <p>(1) 組織の一員としての在り方</p> <p>(2) 保育の楽しみ・喜び</p>		<p>い。保護者に対しては親しみを持って関わることはできているが、専門家としての伝え方については常に学ぶ姿勢を持ち知識を身につけるよう研鑽することが必要である。</p> <p>(2) 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないよう職員は対応している。職員間の挨拶は疲れが出てしまうと気遣いができない時があるため、同僚性としての意識を持つ必要がある。</p> <p>(3) 自らの健康にも配慮しているが、体調を崩して締め切りに間に合わない事があるため、ストレスをためないように日頃から意識を持つ方法を探っていく。教材、教具の管理、点検に気を配っているが、学期末になってしまい、係の先生任せとなるため共有する機会が必要である。また、教材・保育準備の時間の捻出が取れないためノンコンタクトタイムについて検討していきたい。</p> <p>二. 組織の一員としての在り方</p> <p>(1) 教職員全員でひとつのチームであることを意識しているが、クラス（担任個別）や学年の事が中心となり、他学年の職員や新人の職員と関係が取りづらい、互いに意見を言い合える関係性を築いていく事が重要である。園内研修を受けてどんな状況であれ、笑顔で互いに話しやすい関係を作り、良い関係を築きながら仕事をしていく環境が急務である。</p> <p>(2) 子どもと関わること、保育の楽しみ・喜びを感じ合える職員が多い幼稚園である。豊かな自然に恵まれ自然に対する感性を持ち、命の尊さを感じていく環境を大切にしていきたい。地域のことについては関心を持つ必要がある。</p>
--	--	---

#### 4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>保育者一人ひとりが学校評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。</p> <p>職員間で共通していた具体的な検証結果から、園内の環境面を充実させていくこと、保護者を巻き込んでいくこと、家庭や学校、地域社会と連携を図ること、ノンコンタクトタイムにおける時間の確保、共有の仕方（職員間で語り合う時間、他学年と情報を共有するための時間、園内研修を行うための時間、教材・保育準備の時間）について、いかに時間を捻出していくのか検討が必要である。そのための改善策として、年間の行事や時間の使い方について再度見直し有効的な時間を確保することを検討したい。また、園内研修については、もっと自由に職員同士が積極的に話せる機会を希望する声が多かった。職員が安心して自らの思いや考えを表現できる風土を構築していくこととしていく。</p>

	<p>昨年度取り組むべき課題であったICTの活用により、事務作業や保護者への連携がスムーズとなったが、保護者への周知の仕方に検討が必要である。また、空き教室の活用として、年長・年中体操教室、英語教室を開催することができたが、課外の担当者と事前に確認する事項があるため打ち合わせを行っていく必要がある。</p> <p>総合評価が「B」であることは、日頃より各々が保育・仕事内容を振り返り、問題意識を持っているからだと推察する。保育・教育の視点では、保育のあり方、幼児への対応については、子ども一人ひとりと向き合い、丁寧に受け止めて保育する職員が多い。今後も質の高い保育の維持・向上を目指し実践につげたい。</p> <p>日々の保育を通して「自らの保育実践を振り返り」や「専門性の向上や保育の改善」につながることで、また、幼稚園の運営にかかわっていくための相互理解・共通認識の深まりを目指すことについて職員間で共有していくことを次年度も引き続き行っていく。</p>
--	--

## 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安定的な園児募集	園児数減少のため、地域へPR活動、小規模保育施設との連携施設設定による園児の獲得、未就園児の活動や子育て支援を通しての広報戦略の継続と充実、園庭や園舎を定期的に地域開放し、地域活動拠点施設として機能を拡充していく。
家庭や学校、地域社会と連携	日常の保育に、保護や近隣の方に来園いただきと交流する機会を設ける。また、近隣の子育て家庭の参加を広げていく。
園内研修のあり方	職員同士が積極的に話せる機会を設け、職員が安心して自らの思いや考えを表現できる風土を構築していく。
ノンコンタクトタイムの確保	職員間で語り合う時間、他学年と情報を共有するための時間、園内研修を行うための時間、教材・保育準備の時間を確保する

## 学校評価 幼稚園チェックリスト

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	今後取り組むべき課題

保育教育目標 について	(1) 保育・教育目標の具現化に向け、幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	1     B	
	(2) 目標は、園や地域の特色を生かしているか		
	(3) 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか		
	(4) 目標は、前年度の反省を生かしているか		
	(5) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。		
指導について	(1) 指導計画は幼児の実態に即して作成しているか。	2     B	
	(2) 幼稚園教育要領に基づく指導援助を適切に行っているか		
	(3) 環境の構成を意識した指導の方法や過程を常に工夫しているか。		
	(4) 教材・教具を適切に活用しているか。		
	(5) 評価結果を基に、指導の改善に努めているか。		
教育週数 教育時間	(1) 教育週数を確保しているか	3  A	
	(2) 登園・降園時刻と1日の流れは現行でよいか。		
行事について	(1) 行事の種類や実施回数は適切か。	4     B	
	(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。		
	(3) 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。		
	(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか		
	(5) 保護者の願いや意見を取り入れているか		
経営・組織	分掌・体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっているか	5          B
		(2) 職務内容が明確で協働できる体制になっているか	
		(3) 職員の配置は適材・適所	
		(4) 係や仕事の分担・割り当ては適切か	
	運営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか	
		(2) 教職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し協力や助言を惜しまず園の運営に関わっているか	
		(3) 打合せ回数、時間、内容は適切か。	
	学年・学級経営	(1) 学年・学級目標は、保育・教育目標や重点目標に基づいて設定しているか	
		(2) 学年・学級目標は、幼児の実態に即して設定しているか	
(3) 学年・学級目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか			



		(4) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか			
		(5) 意義や趣旨を理解したティーム保育を行っているか			
		(6) 評価、資料(諸記録)を集積しているか			
	保健安全指導	(1) 学年・学級経営に生かされるような具体的保健 対策を講じているか			
		(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか			
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか			
		(4) 幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係 機関等と連携を図っているか			
研究・研究	園内研究指導	(1) 研究主題は、保育・教育目標の具現化につながるものであるか。	6		
		(2) 園内研修の計画・運営は適切。			
		(3) 研究の成果が日常の保育に生かし、幼児の育ちに反映させているか			
		(4) 研究の実践による幼児理解が深まりを見せているか			
	園外研究研修	(1) 各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか		B	
		(2) 各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか			
情報について	(1) 幼児や保護者に関する個人情報 を適正に取り扱 っているか	7			
	(2) 公文書收受、発送、処理を適切に行っているか				
	(3) 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか				
指導について	(1) 園舎・園庭の施設・設備の安全点検を計画的に行っているか	8			
	(2) 遊具・用具・教材等を、活用しやすいように整理・保管しているか				
	(3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っているか				
	(4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか				
出納経理	(1) 各種会計を適正かつ適切に処理しているか	9			
一開かれた幼稚園づくり	学校間交流連携	(1) 他校種との年間交流計画は、保育・教育目標や 課題に添ったものになっているか	10		
		(2) 他校種の幼児児童生徒と触れ合う中で、幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・指導を行っているか			
		(3) 指導者同士が、打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っているか			
		(4) 参観や指導に参加するなどして、他校種の教育を理解しているか			
		(5) 日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか			
	家庭地域社会との連携	(1) 参観時間を工夫し、保護者以外にも対象にした参観日等を設定しているか		C	
		(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か			
		(3) 幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか			
		(4) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか			
	子育て支援の	(1) 他の園に、園庭、保育室等を開放しているか			
		(2) 地域に住む子ども同士、あるいは親子と一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っているか			
		(3) 地域の実態を捉え、計画的な預かり保育を行っているか			
		(4) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか			
		(5) 教職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。			

	推進	(6) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	
二〃	情報の発信	(1) 園だより、学級通信、ホームページ等で園の情報を発信しているか。	
		(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や他校種に対して周知しているか。	
	外部評価	(1) 学校評議員の意見を園運営に反映しているか。	
		(2) 地域や保護者の意見を園運営に反映しているか。	

## 教育課程の編成と実施に関する評価

### 保育の在り方、幼児への対応

一 保 育 の 在 り 方 、 幼 児 へ の 対 応 ①	1. 健康と安全への配慮	11	B
	(1) 朝の登園時には特に視診を大切に子ども体調が悪くないかを確認している		
	(2) けがや事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成やことばがけを行なっている		
	2. 幼児のよみとりと理解		
	(1) 幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている		
	(2) 幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても推察するようにしている		
	(3) 一人の 幼児をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることができる		
	(4) 個々の幼児の発達の姿や課題について見通しを持って理解できる		
	(5) 幼児を自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている		
	(6) 幼児の姿を多面的にとらえることができる		
	3. 指導とかかわり [共同作業者として]		
	(1) 幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線にたつてものを見つめたりしている		
	(2) 幼児の気持ちに共感しながら、一緒によく遊んでいる		
	(3) 一人ひとりの幼児の思いを把握して寄り添いながらかかわっている		
	(4) 幼児からのアイデアをくみとって遊びを深めている [あこがれを形成するモデルとして]		
	(1) 教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている		
(2) 善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなっている			
二 保 育	[心のよりどころとして]		
(1) 幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れようとしている			
(2) 幼児一人ひとりのよさを認めるようにしている			
[遊びの援助者として]			
(1) 幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供している			



二 組 織 の 一 員 と し て の 在 り 方	(3) 子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や副園長・主任に報告、連絡、相談をしている
	(4) 教職員全員と親しくつき合い、偏った人間関係を作っていない
	(5) 上司や先輩に対しては敬語を用いて話している
	(6) 教職員や園の批判を軽はずみにしていない
	3. 保育の楽しみ・喜び
	(1) 幼児と会話をしたり遊んだりすることが好きである
	(2) 幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる
	(3) 幼児と一緒に苦しんだり考えたりすることができる
	(4) 幼児と一緒に生活を創りだすことが楽しい
	4. まわりを感じ取れる感性・アンテナ
	(1) 幼児や教育に関する情報をたえずとらえようとしている
	(2) 自然に対する感性を持ち、命の尊さを感じている
	(3) 地域のことに関心がある